

2025年内定者アンケート

①河北新報社を知ったきっかけ

実家で購読していた、地方紙4社セミナーをきっかけに

▷小学生の頃に仙台に住んでいたので会社名としては幼い頃から知っていた。就職先として意識するようになったのは「地方紙4社合同セミナー」に参加し、報道姿勢について知ったことがきっかけだった。

▷福島県にいたころからお隣の宮城県の新聞社として存在は知っていた。本格的に紙面に触れるようになったのは大学から。大学内の図書館に日本各地の新聞が読めるスペースがあり、福島の県紙は置いていなかったが河北新報は東北の有力紙として置いてあった。東京にいと東北のニュースを中々知ることができないこともあって、福島や東北のニュースを知るために大学では河北新報を重宝するようになった。

▷仙台出身のため、幼い頃からずっと身近な存在だったと感じる。新聞だけではなく、企画展やコンクールのパンフレットなどでも度々社名を目にしていたので印象深い。大学で「災害伝承学・次世代塾講座」(河北新報社主催)を受講しており、より興味を持った。

▷リクナビ2026の企業検索。全国にある新聞業界の企業を検索している際に目に留まった。

▷実家で河北新報を取っており、幼い頃から自然と身近な存在だった。

▷祖父が購読していて、それを自分も読むことができました。

②志望した理由、動機

□インターン参加で仕事や会社の雰囲気をつかむ

▷漠然と憧れていた記者という仕事がインターンシップでの体験を通して、本当に自分がやりたい仕事だと感じた。自分の関心に合わせて様々な仕事に挑戦できると考えたことに加え、地元の方々に自身の執筆した記事を読んで頂けることが、大きな喜びに繋がると感じたから

▷インターンシップに参加したことで、自身が実際に働く姿を想像することができたため、貴社を志望した。新聞社は職種のデパートと呼ばれており、河北新報社について深

く理解するために、記者職とビジネス総合職の両方のインターンシップに参加した。その際に様々な仕事を体験し、元々メディアに興味を持っていたこともあり、自分のこれまでに培った知識や経験を、大好きな東北に情報を発信する貴社で活かしたいと強く思った。

▷理由は様々あるが、決め手はインターンシップ。文章に携わる仕事がしたいと考えていた時に河北新報社のインターンシップに参加させていただき、その際に社内全体の雰囲気の良さと会社の安定性に惹かれ、河北新報社を志望した。

□「東北」が見える新聞社

▷東北各地に支局があり、それぞれの土地に根差した取材ができることに魅力を感じました。また、自分自身被災者であることから河北新報の震災や東北への想いに共感したことも志望動機の一つです。

▷大学 1 年の頃に福島県紙に祖父のことを書いた記事が掲載され、本当に小さい記事だったものの、地元の人に寄り添うことの出来るという県紙のもつ特性に強く魅力を感じるようになった。東日本大震災を東京で経験し、当時何もできなかったもどかしさから将来的には福島に恩返しができる仕事に就きたいと思っていたが、震災は福島に限った問題ではない。福島に留まらない取材をすることでこそ視野が広がるのではないかと考えていた矢先に、ちょうど河北新報社の講演会に参加し、東北 6 県にまたがる河北のブロック紙としての幅広い取材網に強く惹かれたことが、志望する最大の理由になった。

▷社会を最前線で見たいという気持ちと、今まで住んだことのない場所で働きたいという気持ちがあった。東北出身でないからこそ見えてくる「東北」があるのではないかと思い、志望した。

□記者職にやりがい

▷河北新報社のオンライン説明会に参加した際に記者のことを「国民の権利を守る実働部隊」と表現していて自分の就活軸と重なり、志望した。

▷小学生のころは旅行先の写真を自ら撮影し、魅力や体験を記事としてまとめ、オリジナルの新聞をよく作成していました。この体験をきっかけに、「伝える仕事」の魅力に強く惹かれていくようになりました。

③入社試験で力を入れたこと

（筆記、作文、面接の対策、企業研究など）

□企業研究：新聞を読む、説明会に参加、採用HPをチェック

▷新聞を毎日読む。特に国際に関する記事はノートにスクラップし、問題点や気づきを書くなどして、記事のストーリー性を良く理解できるよう工夫した。

▷とにかく新聞に目を通した。つい東北の地域面に目が行きがちだが、国際面や特集などにも目を通すよう意識した。全国紙と同じ話題を扱っていても論調や注目のポイントは意外と異なっていて、会社がどのようなスタンスを取っているのかが分かりやすい。

▷企業研究は、HPに目を通すことくらいしか行っていない。自分の住んでいるエリア的に河北新報の紙面を手にするのは難しかったため、河北新報オンラインを無料登録したり、住んでいる県の県紙を毎日購読したりした。

▷説明会に参加することが企業研究になる。その際に自分の軸と重なると思う点があればESや面接で使えるのでメモしておくといい。

▷HPの企業理念や会社紹介によく目を通し、社風や求める人材についての理解度を深めていった。

▷採用ホームページや就職活動サイトを閲覧していた。企業説明会では、必ず質問をすると決めていた。また、河北新報オンラインを購読し、一面のニュースや東北の情報を重点的に読んでいた。

□筆記試験対策：東北のニュースも出題

▷東北地方の地名、名産、ニュースなどの地域理解が最も重要であると思った。

▷朝日キーワード2026を毎日読み、時事問題対策はしていた。一方で宮城のご当地ニュースは調べ切れていないものも多く、もっと新聞を読む際宮城県内の面を隅々まで読んでおけばよかったと少し後悔している。

▷教員採用試験や公務員試験の対策をしていれば難く解けるものが多いと思う。東北地方に関するご当地ニュースを題材にしたような問題もありこちらは難しく感じたため、東北地方のニュースを意識的にチェックすればよかったと感じている。

▷新聞に載るような分野全般のニュースを広く浅くチェックしつつ、特に自分の関心のあ
る分野のニュースに関しては深く調べて自分の意見を持つようにした。河北新報社に対
する対策にもなるだけでなく、一般教養を深めることもできた。

▷普段からニュースを読んだり、聞いたりすることは多かったのですが、実際に疑問に感じ
た事柄や、わからないキーワードなどをメモするなどして深く自分の中に取り込むよう
にしました。

▷時事問題に関してはニュース時事能力検定を持っていたので、その試験対策がそのまま
新聞社の筆記試験対策となった。私は3月に取得したが、ESの提出と重なって時間管理
が大変だったので記者を目指すのであれば早い段階の受験をオススメする。もう一つ後
悔していることは、東北地方の地名の問題が出たので地方新聞を受けるなら地名も事前
に復習しておけばよかったと感じた。ちなみに私の受けた新聞社の筆記試験で唯一、英語
の問題も出題された。

□作文対策：学生時代のエピソードや経験を複数準備しておく

▷学生生活を振り返って、様々なエピソードを準備できるようにした。

▷事前にお題は漢字一文字になる可能性が高いとは聞いていたので、ある程度出そうな漢
字の想定は立てていた。特に書く練習はしなかったが、どんな漢字が来ても自分の経験と
繋ぎ合わせられるよう、自分の中で印象に残っている経験などはあらかじめ書き出して
いた。

▷試験本番の作文で合格レベルの文章を書くためには大きく二つの要素が必要。それが

①ある程度の文章力、②自分の書く作文のパターンのインプット

①に関しては日頃から新聞を読むことが対策となる。②に関して言うと試験当日に作文
のお題を見てから何を書くか1から考えていると時間が足りなくなるリスクがある。そ
こで、あらかじめ書くテーマを3~5個くらい考えておいて、そこから当日出題された
お題に大筋で合うものを選んで解答すると良い。ちなみに私はガクチカ、サークル、外
国人学生との交流の3つのテーマを用意して当日出題されたお題と合いそうなものを選
んで書いた。

□面接対策：「会話」を意識、何度も練習

▷想定問答集を作成したり、別業界の面接を受けるなどして実戦的な経験を積んだ。

面接は回数を重ねるほど、改善点が見つかるのでその都度修正した。面接はあくまでも会話であることを意識して取り組んだ。

▷①基本的な質問②考える質問③自分が聞かれたら嫌な質問の 3 つに分類し、それぞれの質問に対する回答のリストを作成した。また自分は緊張しいだったため、カメラに自分の顔を映しながらスーツを着て出来る限り本番に近い状況で話してみる、という練習を繰り返し、当日頭が真っ白になってしまわないようにしていた。

▷学校の先生に面接練習をしていただき、自分の癖や良くないところを指摘していただいた。また、想定質問をインターネットで検索してその場で答えるロールプレイングを、最終面接当日までほぼ毎日行った。

▷大学のキャリアセンターの方に協力してもらい、対面形式でも、zoom 形式でも面接練習を繰り返し行いました。

▷まず自分の ES を AI に読みこませ、そこから想定される質問に全て答えられるようにする。(私は ChatGPT より Claude を使っていた) それがある程度頭に入ったら大学の進路就職センターへ行き、模擬面接をして、フィードバックをもらう。最後に一番大切なのは、実戦経験を積むこと。私は東北から鹿児島まで日本各地の新聞社で面接の経験を重ねた。受ければ受けるほどいいという意見もあるが、日程調整が大変なので、闇雲ではなく就活の戦略を元にたくさん受けるのが正解だと思う。

▷面接ノートを作成していた。ノートには、想定される質問とそれに対する回答を会話形式で記入し、面接前に読んで心を落ち着かせていた。質問内容に関しては、ES に記載した職種を志望する理由と貴社でやりたい仕事について詳しく話せるように対策していた。大学のキャリアセンターに、何度もお世話になった。

④入社を決めた理由

□働くビジョンが見える、報道姿勢に共感

▷第一志望だった為、内々定の連絡を頂いた直後入社を決めた。東北地方を取材できることに大きな魅力を感じた。

▷「伝える仕事」がしたいという夢が実現できる場所であったので、内定をいただいてすぐに入社を決めた。

▷自分にとって馴染みのある福島の県紙と悩んでいたが、大学で直近ずっと触れてきた河北新報に親しみを感じており、また紙面の内容の充実度も河北新報社の方が高いと感じたのが一番の決め手になった。声の交差点を始め読者と繋がれる要素を紙面のあちこちを感じられ、俳句や小説など「新聞も一種の文学作品なのでは」と思わせてくれる紙面が河北新報だった。また、講演会から会社説明会、面接に至るまで社員の方々が親身に対応して下さったことも、会社の環境の良さを感じられる要因だった。

▷第一志望としていたので、内々定をいただいてから、すぐ入社意思を固めた。何度も面接練習をしたり、自分自身と向き合ったりしていたので、それが結果に繋がりととても嬉しかった。

▷就活軸として「公権力の監視」「社会的弱者の声の代弁」があったのでその二つに関して社として確かな実績があったことが最終的な決め手だった。

▷面接や企業研究を重ねる中で最も自分が働いているビジョンが思い描けたのが河北新報社だったからです。

▷他の新聞社も何社か選考を受けていたが、河北新報社の面接官の方々が一番自分の話を真摯に聞いてくださっていると思った。まだ入社するかも分からない就活生のお話を丁寧に聞いてくださるということは、きっと丁寧な取材をされる記者がたくさんいる新聞社なのだろうと考え、入社を決めた。

▷インターンシップを終えた際から第一志望だったので、内々定の電話をいただいた時にすぐ入社を決めた。

⑤入社したらどんな仕事をしてみたいか

□東北の課題や話題、スポーツ、教育を取材したい／読者の声を大事に／
地域を盛り上げたい

▷地域復興に貢献できる記事を書きたい。東北は日本の中でも過疎化、高齢化が著しい地域の一つだが、それは「時代の流れ」という言葉一つで片付けられるようなものではない。自治体それぞれが特産品やイベントなどを通して、少しでも特色のある街づくりを未来に繋げていこうとしており、どんな小さな取り組みでも記事にすることでその価値を大きくすることができるのではないかと思う。自分の書いた記事を読んだ人が「その地域に行ってみよう」と思ってくれたら嬉しいし、最終的には自分の地元の記事も書いてみたい。

▷私は同期の中で一番若く、色々と経験が足りていないため、まずは社会人として基本的なことを、彼ら彼女らに見劣りしないように身につけていきたい。ずっと変わらず河北新報を発行し続けられるような、安定した仕事がしたい。

▷本当にたくさんありますが、できるだけ多くの現場に出向き、自分で情報をつかむプロに早くなりたいです。また、経験を積む中で自分の得意分野を持てるようになりたいとも考えています。現時点では、人口減少をはじめとする社会の変化の中で宮城、そして東北で暮らしを繋いでいくためにはどうしたらいいのか、注目して記事を書いてみたいと考えています。

▷貴社や新聞の魅力を発信するために、顧客や購読者の声を大切にし、フットワークの軽さを活かして積極的に行動できる人材になりたい。

▷報道のみならず、河北新報が積極的に取り組んでいるスポーツ・文化イベントや地域振興事業にも関わりたい。報道とイベントの両面から、東北を盛り上げる役割を担いたいと思っている。

▷日々の積み重ねを大切に、人から信頼される記事を書き続けたい。その中でもスポーツや地域イベントなどを特に取材したい。公式戦を取材するだけに留まらず、部員不足により連合チームを組むなど、厳しい環境の中でも工夫して活動している学校を取材し、部活動の在り方について再考したい。

▷教育分野に関心があるため、学校教育や地域教育など様々な分野の教育に関するニュースの記事にしたい。そしていつかNIEにも携わってみたい。

▷就活軸が「公権力の監視」と「社会的弱者の声の代弁」を実現させることなのでその初心

を忘れずに働きたい。加えて本当の意味で地域に寄り添った報道をしたい。新聞記者という
と、どうしても「情報を伝える」立場になりがちだが、東京育ちの私は地元のことはまだ詳
しくない。そこで自分の方も地域についての「情報を知る」側面もあるという双方向で謙虚
な姿勢を持って取材に携わりたい。

⑥就活生へメッセージ

□経験を積もう、迷っても納得のいく結論を、自分らしさ大切に

▷大学では福祉について学んでいたため、「なぜ福祉職に就かないのか」と深く質問され
るのではないかと不安に感じていました。しかし、自分の夢や興味・関心を大切にしたい
と思い、記者部門とビジネス部門の両方のインターンシップに参加しました。その経
験を通じて、自分のこれまでの学びを必ず活かせる場面があると確信しました。面接で
は、インターンシップで深めた貴社への理解をもとに、福祉を学んでいることを自分の
強みとしてアピールしました。就職活動においては、専攻と近い業種だけにとらわれ
ず、自分の気持ちを大切にしながら進めてほしいです。そのためにも、インターンシッ
プへの参加は非常に有効な手段だと思います。これからも自分の軸を持ち、積極的に挑
戦してください。応援しています！

▷経験は量より質とも言いますが、少なくとも大学生のうちは経験の量にこだわってみて
もいいんじゃないかなと思います。取るに足らない経験に見えていたものが後々生きて
くることもありますし、どんな小さな経験でもマイナスになることはありません。やるか
やらないか迷うことがあったら、とりあえずやってみるという選択を取ってみると可能
性はいくらでも広がります！！自分は就活中、周りの同級生が皆進んでいるように見え
てとても焦っていました…でも結局は成功も幸せの基準も人それぞれですし、無理に人
と合わせる必要は無いのかなと思います。こんなにたくさんの会社のことを知ることが
できるのは後にも先にも就活中だけなので、この機会にぜひ自分なりの可能性の先を探
してみてください！応援しています！！

▷就活中も、内々定を得てからも、どこの企業に進もうか迷っているうちは不安がつきもの
だと思います。それでも考え続けて出した結論は、その結果がどうであれ、なんとなくで
選択したものよりずっと良い影響を自身に与えてくれるはずです。

迷っても戻っても大丈夫です。でもどうか、考えを止めないようにしてください。この文
章を読んでくださったあなたが、納得のいく選択ができることを祈っています。

▷就職活動はありのままの自分を見せることが大事だと思います。上手に話そうとしなく
ていいんです。自分らしさを大切に頑張ってください。

▷就職活動の早期化や長期化により、疲れたりすることもあるかと思います。ですが、周り
と比べず、焦らないことが本当に大切だったと終えてから気づきました。また、就活期間
とはいえ、それだけにとらわれず大学での学びを深めたり、しっかりと日常生活をおくる
ことは最終的に自分のためになるとも感じました。マイペースに、頑張ってください！

▷就職活動を通じて、自分のことが以前よりも分かるようになりました。
迷った時は挑戦してみるくらいが丁度いいと思います。皆様が自身の描くなりたい自分
に近づけるよう願っています。息抜きは大切に！

▷新聞社を志望し、日常のニュースに関心を持つということは、たとえこの業界に就職をせ
ずとも必ず役に立つことだと思います。忙しすぎて就活を辞めなくなったり、はたまた周
囲の友人の選考状況を聞いて辞めなくなったり、そもそも社会に出たくなくて就活を辞
めなくなったりするかもしれませんが、これほど自分のやりたいことに強制的に向き合
わされる時間もなかなかありません。どうせやらなければならないのなら逆にこの機会
を利用して、とことん自分を知り尽くしてしましましょう。そうやって悩み抜いたあなた
は、きっと納得のいく将来を掴めるはずです。

▷時間をかけてでもいろいろな業界を見る価値はあります。私は記者職を第一志望にする
前はIT業界やコンサルティングなども見ていましたが、他の業界を知っているからこそ、
迷いなく記者として働きたいと思うことが出来ました。さらに他業界との人脈が広がる
というのもメリットです。例えばIT企業のインターンシップで同じ班になった友人とは
現在も交流があり、（その会社は落ちましたが）行ってよかったと今でも思います。あと
は就活をゲーム化するのも一つの手です。例えば3社落ちるごとにハーゲンダッツを一
個食べて良いなどのルールを設定して楽しむのもいいかもしれません（笑）